

4 病原体検査状況

(1) 病原体検査の概要

ア 疾患別、月別検査受入状況(P33 表 14 参照)

受入検体件数 84,622 件（全数把握対象感染症 84,609 件、定点把握対象感染症 6 件）で、多い順に新型コロナウイルス感染症 84,500 件、腸管出血性大腸菌感染症 67 件、日本紅斑熱 22 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）10 件等である。

新型コロナウイルス感染症については、年間を通して検体の受け入れがあったが 1 月からの第 6 波、6 月下旬からの第 7 波、10 月上旬からの第 8 波と感染の流行に伴い検体数が増減した。特に第 7 波においては 1 日の受入検体件数が最大 975 件まで増加した。その後、各保健所から民間検査機関への委託も進み、受入検体数は徐々に減少した。

他の全数把握対象感染症については、腸管出血性大腸菌感染症の検体は 2 月から 12 月まで検体の搬入があった。ダニ媒介感染症である日本紅斑熱の検体は 4 月から 11 月、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の検体は 5 月から 10 月とマダニの活動が盛んな春から秋にかけて搬入が相次いだ。

定点把握対象感染症については、積極的疫学調査として感染性胃腸炎の検体の受け入れがあった。病原体定点からの検体受入は、令和 3 年に引き続き新型コロナウイルス検査対応のため中止した。

イ 疾患別病原体分離・検出状況(P34 表 15 参照)

4 疾患 4 種類 6 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア、細菌が分離・検出された。分離・検出されたものは、以下のとおりである。

- (ア) 腸管出血性大腸菌感染症：O157 が 4 件、O103、O146 がそれぞれ 2 件分離同定された。
- (イ) 日本紅斑熱：日本紅斑熱リケッチアが 9 件検出された。
- (ウ) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）：SFTS ウイルスが 1 件検出された。
- (エ) 新型コロナウイルス感染症：新型コロナウイルスが 10,465 件検出された。

表14 採取月別検体受入状況(令和4年1月~12月)

臨床診断名(疑いも含む)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象感染症	腸管出血性大腸菌感染症		8	1			4	5	13	10		12	14	67	
	日本紅斑熱				1	4	4	2		6	4	1		22	
	つつが虫病										1			1	
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)					2	2	1		3	2			10	
	チクングニア熱										1			1	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症					3						1		4	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)										1				1
	麻疹							3							3
	新型コロナウイルス感染症	8,492	13,853	11,902	10,615	5,344	2,481	16,048	11,521	1,388	365	766	1,725	84,500	
小計	8,492	13,861	11,903	10,616	5,353	2,491	16,059	11,534	1,407	374	780	1,739	84,609		
定点把握対象感染症	咽頭結膜熱													0	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎													0	
	感染性胃腸炎						6							6	
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)													0	
	手足口病													0	
	ヘルパンギーナ													0	
	流行性耳下腺炎													0	
	インフルエンザ													0	
	急性出血性結膜炎													0	
	流行性角結膜炎													0	
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)													0	
	無菌性髄膜炎													0	
	伝染性紅斑													0	
	RSウイルス感染症													0	
水痘													0		
突発性発疹													0		
小計	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6		
その他									2		5			7	
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0	0	7	
計	8,492	13,861	11,903	10,616	5,353	2,497	16,059	11,536	1,407	379	780	1,739	84,622		

※新型コロナウイルス検査対応のため、病原体定点からの検体の受入を中止した。

表15 全数把握感染症 疾病別 病原体分離・検出状況(令和4年1月～12月)

		腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O146	腸管出血性大腸菌O157	日本紅斑熱リケツチア	つつが虫病リケツチア	SFTSウイルス	チクングニアウイルス	カルバペネム耐性遺伝子(IMP、NDM、KPC、OXA-48)	麻しんウイルス	新型コロナウイルス	計
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	2	4								8
4類感染症	日本紅斑熱				9							9
	つつが虫病											0
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)						1					1
	チクングニア熱											0
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症											0
	麻しん											0
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症										10,465	10,465
計		2	2	4	9	0	1	0	0	0	10,465	10,483

(2) 全数把握対象感染症

ア ウイルス検査の概要

(ア) SFTSウイルス

保健所の積極的疫学調査により 10 件の検査を実施した。その内、1 名から SFTS ウイルスが検出された。

(イ) チクングニアウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、チクングニアウイルスは検出されなかった。

(ウ) ノロウイルス

保健所の積極的疫学調査により急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）の原因究明の一環として 1 件の検査を実施したが、ノロウイルスは検出されなかった。

(エ) 麻しんウイルス

保健所の積極的疫学調査により 3 件の検査を実施したが、麻しんウイルスは検出されなかった。

(オ) 新型コロナウイルス

保健所の積極的疫学調査により 84,500 件の検査を実施した。その内、10,465 名から新型コロナウイルスが検出された。

イ リケッチア検査の概要

(ア) 日本紅斑熱

保健所の積極的疫学調査により 22 件の検査を実施した。その内、9 名から日本紅斑熱リケッチアが検出された。

(イ) つつが虫病

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、つつが虫病リケッチアは検出されなかった。

ウ 細菌検査の概要

(ア) 腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌感染症患者（健康保菌者を含む）は 14 名発生した。当所では、患者（陰性化確認）と患者の接触者（結果陽性の場合の陰性化確認も含む）について 67 検体（便）の検査を実施した。その結果、4 件の腸管出血性大腸菌を分離・同定し、これらの血清型は、O146、O157、O103 であった。また、当所で分離・同定された菌株 4 株について毒素遺伝子を検査したところ、「VT1・VT2」が 1 株、VT1 が 2 株、VT2 が 1 株検出された（P36 表 16 参照）。

(イ) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

発生届のあった菌株 4 件について検査を実施したところ、いずれも 4 つの遺伝子型（IMP 型、NDM 型、KPC 型、OXA-48 型）に該当しなかった。

(3) 定点把握対象感染症

保健所の積極的疫学調査により、6件の感染性胃腸炎の検体についてノロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルスの検査を実施したが、いずれのウイルスも検出されなかった。

病原体定点からの検体受入は、新型コロナウイルス検査対応のため中止した。

表 16 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(令和4年1月～12月)

No.	検出月日	当所検査	居住地域	性別	年齢※	症状の有無	O血清型	Vero毒素型
1	2月4日	—	西部	女	30歳代	無	146	VT2
2	2月10日	分離・同定	西部	男	70歳代	無	146	VT2
3	6月16日	—	東部	男	10歳代	有	157	不明
4	7月23日	—	東部	女	30歳代	有	157	VT1・VT2
5	7月30日	—	中部	女	幼児	有	157	VT1・VT2
6	8月19日	—	中部	女	10歳代	有	157	不明
7	8月25日	—	中部	男	幼児	有	157	不明
8	8月27日	分離・同定	中部	女	幼児	有	157	VT1・VT2
9	11月8日	—	東部	女	10歳代	有	157	不明
10	11月8日	—	東部	女	70歳代	無	型別不明	不明
11	11月24日	—	東部	女	20歳代	有	157	VT1・VT2
12	12月19日	—	中部	女	乳児	有	103	VT1
13	12月22日	分離・同定	中部	男	幼児	有	103	VT1
14	12月22日	分離・同定	中部	男	幼児	有	103	VT1

※表中の着色部分はそれぞれ同一事例を示す。それ以外は個別事例

※乳児：1歳未満 / 幼児：1歳以上の未就学児